



### 湯立て神事

5月15日(金)、弘仁11(820)年に弘法大師空海が清瀧神社を創建して以来伝承されている、湯立て神事が行われました。

この神事は、熱湯を全身に浴びることによって心身(肉体と精神)を浄化し、諸願成就を祈念する神事です。見学に訪れた、地元清滝小学校の6年生からも、驚きの声が上がっていました。



6月6日(土)、7日(日)の2日間、湯西川温泉で毎年恒例の平家大祭が開催されました。6日には前夜祭、7日には本祭が行われ、会場は多くの参加者や観光客などでにぎわいました。7日の本祭では平家絵巻行列が行われ、鎧武者や姫など、地元の子どもたちや全国からの公募で集まった人々などによる行列が温泉街を練り歩きました。



埼玉県小川町から姫行列に参加した橋本ふみさんと吉原舞子さんは、「初めて参加しました。2月にかまくら祭りに来たときに、ポスターで行列に参加できることを知って応募しました(橋本さん)、「このような衣装を着るのは初めてです。貴重な体験でとても楽しかったです。貴重な体験でとても楽しかったです。貴重な体験でとても楽しかったです。貴重な体験でとても楽しかったです。」と、笑顔で話してくれました。

### 平家大祭

### 日光東照宮四百年式年春季例大祭

今年、徳川家康の没後400年を迎えた節目の年。日光東照宮は、泰平の世を築いた家康の平和への精神を継承するため、5月17日(日)から3日間、400年式年春季例大祭を盛大に行いました。初日は神職や徳川家一門、関係者約300人が参列し、本社拜殿で例大祭の祭儀が厳粛に執り行われました。午後には、表参道で神事流鏝馬を披露。鎌倉時代の狩装束に身を包んだ射手の妙技に、約3万7,000人の観客から大きな拍手と歓声が上がりました。斎藤さん(矢板市)は「初めて迫力ある流鏝馬を見て、すごい一言です。時代の装束にも感慨深いものがありました」と興奮気味に話していました。



2日目は、家康を静岡県の久能山から日光に改葬した行列を再現



した「百物揃千人武者行列」。鎧武者をはじめ鉄砲持、槍持、掛面など53種類の装束をまとった行列に続き、家康、豊臣秀吉、源頼朝が祭られた3基の神輿が、表参道から御旅所まで約1kmを練り歩きました。壮麗な時代絵巻は約5万人の観客を魅了しました。その後、久能山に見立てた御旅所の神事では「八乙女の舞」と「東遊ひの舞」の優雅な舞が披露されました。3日目は、門前の東西11町の花家体がお囃子を奉納。五重塔前では、国際空手道連盟極真会館による見事な奉納演武が行われ、春の大祭行事は幕を下ろしました。

### 山野草展

「今市宿市縁ひろば」で、5月8日(金)~14日(木)に「石斛展」が、15日(金)~21日(木)に「鬼怒川裏白環瑠展」がそれぞれ開催されました。

取材に訪れた「石斛展」では、集まった多くの愛好者たちが、白やピンクの可憐な花に見入っていました。



### 荒沢不動尊縁日

5月28日(木)、裏見滝で荒沢不動尊縁日が行われ、多くの人でにぎわいました。荒沢不動尊は、寛永元(1624)年に羽黒山(山形県)から迎えられ、天海大僧正の命で滝の後ろに安置したと伝えられています。



当日は、興雲律院の日光修験の行者たちによって観瀑台に設置された護摩壇で護摩が焚かれました。



ました。願文を読み上げ、参加者の願いが書かれた護摩木が火の中に入れられると、周囲は厳かな雰囲気になりました。儀式終了後には参加者にお札が配られました。匠町から友人と訪れた塚原さんは、「毎回友人たちと来ています。次回の秋の縁日も行きたいですね」と話してくれました。

### 今月の表紙 お杉御田植祭

6月6日(土)、森友の瀧尾神社で、大地の恵みに感謝し五穀豊稔を願う伝統行事、お杉御田植祭が開催されました。

神様を招くための杉の御柱を中心に、色とりどりの田植え装束に身を包んだ早乙女や田男、子どもたちが元気よく苗を植えました。田植え中には、市無形文化財の「今市田植え歌」が朗々と披露されました。また、悪天候や飢饉などの困難な状況を表現した鬼が田植え作業の邪魔をしに登場すると、おかめやひよっとこと一緒に子どもたちが一生懸命追い払い、観客から笑いを誘っていました。今年初めて参加した菊谷美穂ちゃん・今井貴大くん(森友)は「赤



鬼さんやっつけた!」「楽しかった!」と元気いっぱい泥だらけになって苗を植えています。この日植えられた苗は穂が出る前に青刈りし、大しめ縄に加工されて瀧尾神社に奉納されます。